

歯と口腔の欠損に対する補綴治療とクオリティ・オブ・ライフ(QOL)

歯学部歯科補綴学第一講座 ◆ 赤川 安正



歯や口腔の諸組織が欠損すると、食べる、しゃべるといった生活の営みに大変重要な機能が低下するばかりか、顔つきが変わり、社会生活に大きな影響を与える。

ここでは、歯や口腔の欠損をもつ高齢者が生き生きと長寿生活を送るために、義歯の治療が大きく貢献していることをQOLの視点から考える。

高齢化社会と歯科

世界で例を見ない速いスピードで高齢化が進み、二十一世紀には世界でも進んだ超高齢化社会を迎えようとしている我が国において、これら高齢者が満足のいく長寿生活を送るために、歯と口腔の役割が改めて認識され、大きな注目を集めるようになってきている。

歯と口腔は、食物摂取、咀嚼、嚥下といったおいしく食事をする機能や顔貌の維持に大きな役割を果たしているばかりか、生き生きとした表情を保ち、うまくしゃべりながら円滑なコミュニケーションを図るといった上にも不可

欠なものであり、歯と口腔の状態が社会生活に及ぼす影響は大きいものとみなされる。

このような生活全体に及ぼす影響の度合いは、クオリティ・オブ・ライフ(生活の質、以下QOLと略す)との関わりの中で議論される必要がある。歯科医学や歯科医療をQOLの観点から考えることがきわめて重要な課題と認識されてきている。

すでに述べた、歯と口腔の役割を維持する責務を負っている歯科医学や歯科医療が、高齢化社会の中で目指すべき到達目標は大きく二つに分けられる。

その一つは、これから高齢者になる予備軍である成人や小児に対して、いかに多くの健全な歯と口腔の諸機能を保持していくかを指すものであり、この特徴的な展開は、現在厚生省と日本歯科医師会が提唱・推進している八〇二〇運動(八十歳で二十本の歯を残そう)や、全国に先駆けて我が広島県で始まった五五二五運動(五十五歳で二十五本の歯を残そう)にみられ、さまざまな取り組みが実施されてきている。もう一つは、既に残念ながら多くの

歯や口腔組織を失ってしまった高齢者がさらに長生きをしていく中で、いかに生体機能補助代行を達成するかであり、ここでは義歯や人工歯根(口腔インプラント)を用いる補綴治療が大きな役割を演じることになる。

そこで、このような目標の中にQOLの視点を持ち込み、さらに先進国の人々の行動を理解する上での鍵ともいえる「満足度」をもとり入れながら、補綴治療が、高齢者の社会生活に果たしている役割を新たな切り口で評価したい、と考えるようになった。上下顎のすべての歯が欠損した高齢無歯顎患者に対象を絞り、患者からみた現在装着・使用している総義歯の評価、さらに本人の生活の満足感などをとらえ、総義歯治療が高齢者のQOLに及ぼす影響を検討してみた。

満足度の数量化

無歯顎患者の義歯に関する食べやすさ、しゃべりやすさなどの十三項目に對しての満足度と、総合的使用感の満足度について、「満足」「ふつう」「不満」

の三段階で評価させ、このあいまいな評価を、多変量解析数量化II類を用いて判別得点により数量化して表示した(図1)。

さらに、総合的使用感と有意な関係があった六つの義歯の項目を選び出した後、それらの関係の重さに従って重みづけした点数を与えて、百点満点で総義歯治療に対する満足度を表現できる評価表を作成し、この評価された点数を満足度スコアと呼ぶことにした。

総義歯の満足度と

社会生活の満足度

社会生活の評価、すなわち、QOLを数量化して評価する方法はいまだに確立されておらず、各研究者は独自に模索しているのが現状である。

そこで、我々は社会生活に対する満足感をとらえることでQOLを評価しようと考えた。患者への質問には、人間関係、将来への不安、食生活、充実感、生きがい、睡眠、疲労感、気分、健康、通院、運動、年齢的な衰えの十二項目と社会生活全般への満足感を選び、さらに、社会生活の満足感からみた総義歯の満足度スコアについても検討を加えた。

歯学部附属病院第一補綴科において総義歯治療を受けた高齢無歯顎者百二十名を対象に、総義歯の満足度スコアと生活の満足度を評価できる二つの表を用いて調査を実施したところ、生

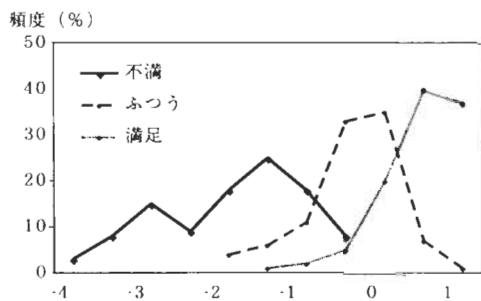


図1：総義歯の満足度から見た判別得点の分布
(多変量解析数量化II類を用いて判別得点を算出した)

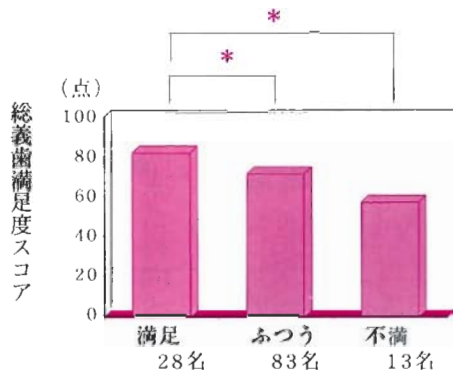


図2：生活の満足感から見た総義歯満足度スコアの比較
(*印は危険率5%以下で有意を示す)

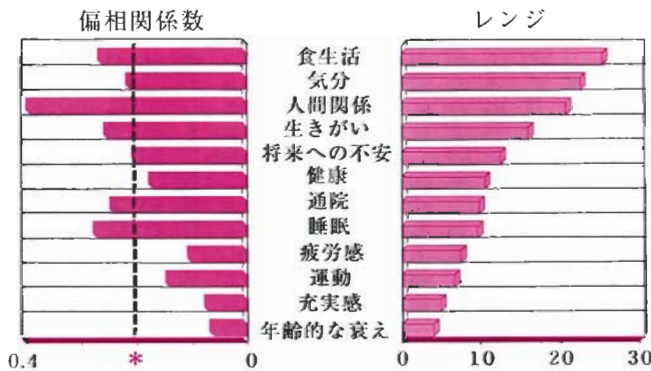


図3：総義歯満足度スコアと生活に関する項目間との関係
(多変量解析数量化II類を用いた。*印は危険率5%以下で有意を示す)

プロフィール

(あかがわ・やすまさ)

- 昭和二十四年十一月二十三日 広島県呉市に生まれる
- 昭和五十年三月 広島大学歯学部卒業 (第五回生)
- 昭和五十四年三月 広島大学大学院歯学研究科単位修得退学
- 歯学博士 (広島大学)
- 広島大学歯学部助手、歯学部附属病院講師、歯学部助教授を経て、平成五年六月歯学部教授に就任
- 昭和五十六年九月～五十七年九月まで海外研修 (スウェーデン・イエテボリ大学)
- 専門は口腔インプラント、顎口腔機能異常に関する研究

活の満足度から見た総義歯の満足度は、その生活の満足度の違いにより有意の差が存在した。さらに、総義歯の満足度は生活の中でも、スムーズな人間関係、おいしい食生活、よく眠ること、生きがいなどの満足度に有意な関係をもっていることも明らかとなった(図2、3)。これらの事実は、満足度の高い総義歯治療を展開することにより、より充実した社会生活を送ることに貢献できる可能性を示唆していると思われる。

今後は、新しく開発、臨床応用を行っている人工歯根(口腔インプラント)治療により患者の社会生活がどのように改善されるのか、さらに多数の高齢者に施されている補綴治療が社会生活全体へ関わる度合いなどを広い地域で明らかにすることによって、「長生きして良かった」人生を支援する歯科医学と歯科医療の重要性を明確にし、豊かな長寿社会のバックアップにお手伝いをしたいと考えている。

★投稿を募ります！広報委員会から

広大フォーラム五号(十二月一回発行予定)は、従来の「特集」を休載します。この間「フォーラム」欄、「開かれた学問」欄に掲載の希望が、多く寄せられています。そこで五号では、読者の自由な投稿を募りたいと思います。

西条キャンパスでのキャンパスライフを充実させるための要望、意見、提案 HINETの利用法に対する質問や提案、自分の研究の紹介やユニークな共同研究の呼びかけなど、ジャンルは問いません。

投稿規定

- 一、二〇〇字以内
- 二、原稿はMS-DOSのテキストファイルのフロッピーディスクに記入し、ハードコピーと図表を別途添付してください。
- 三、本文には四〇〇字程度で小見出しをつけてください。
- 四、原稿の趣旨には手をつけませんが、読みやすくするために編集上修正することがあります。

☆写真展、絵画展のご案内

広島大学環境汚染対策委員会では、写真部と共催で、写真展、絵画展を左記のとおり開催する予定です。

統合移転により変化する新旧キャンパスの環境を写真、絵画として保存し、「広島大学の四季」写真、絵画集の発行を計画したく考えています。構成員一同からの多数のご応募を募ります。

一、題 材 本学構内の風景等歴史的な写真、絵画を含む。
二、応募期限 平成六年十二月末日
三、展 覧 会 平成七年二月頃(第一回写真、絵画展)予定
四、応募規定 本学に関連する題材であること以外は全て自由
五、作品提出先 中央廃液処理施設 正藤(内線六一九五) 電話0824-22-7009(直通) 又は 0824-24-6195(ダイヤルイン)